

「土砂災害に備えるために」

三重県 亀山市立亀山東小学校 4年 草川 清香

「ドーン」

と、まるで海のような波が、太い木や丸太等を見たこともない速さで次々と上流からおし流していました。激しい雨の音で、本当に心がドキドキする光景に出合いました。

それは、7月16日台風11号の大雨けい報が出ていた時のことでした。私は、車で登校する途中でしたが、そんな時に見たのが、鈴鹿川のおどろきの姿でした。なんと、堤防の上の方まで、どろ水がせまっていたのです。大きな川の左右一ぱいまでの急流で堤防には、どろ水の波が当たって、まるで海のような、見たことのない波でした。

鈴鹿川は家から1キロメートルくらいの場所にあり、広くて大きい川ですが、ふだんは水も少なく、きれいな川で夏はずしそうです。その川が今、私の目の前で、堤防のほんの少しまで増水しています。「自然のこわさ」にとってもびっくりしました。

今年の台風の時、三重県に特別けい報が出ました。その時、家にいても雨や風がまどなどに当たり、「ギシギシ、ガタガタ」

という音が聞こえて、一ばん中とてもこわく、なかなか、ねむれませんでした。その夜中には、大雨のため堤防近くや多くの場所にひなん勧告が出て、私の小学校もひなん所になりました。しん水した家も多くあったと、よく朝ニュースで知りました。

私は、学校まで2.4キロメートルもの長い通学路をいつも歩いているので、『防災みえ』や『気象台のホームページ』もよく見ます。登下校時の急な天気の変化に備えるためです。このホームページは、わたしたちにも大変見やすくなっているようで、ハザードマップも関心を持って見えています。それを見ると私の家は、土砂災害のき険が低い事が分かりました。しかし、私の家から遠くには急しや面や多くの里山に「がけ」があり、ハザードマップでは、き険な場所があります。注意が必要だと思います。また、通学路の「がけの道」と家族でよんでいる所でき険な場所を発見しました。以前の大雨で坂道のアスファルトの下の土砂が流れて、何か所もアスファルトが大きくくずれていたのです。そこは工事して直されていました。ハザードマップをもう一度、ていねいに見ました。この「がけの道」は、き険の色がぬらされていて、本当に身近に土砂災害の可能性がある事を学びました。亀山市にも土砂災害の可能性のある所が多くある事が分かり、私にとって新しい勉強になりました。

今年の広島ごう雨災害では、70人以上の方が亡くなり、「自然のきびしさ」は毎年どこかで発生し、ニュースになっています。ですから、「絶対安心」は私はないと思います。特別けい報の時も「経験した事のない大雨」と言う表現がありました。両親、祖父母も体験してないことになります。毎日の天気予報も必ずそのとおりではなく、想定外の大雨、土砂災害もある事が当たり前くらいに考える必要があると思います。

今、鈴鹿川は新しい橋の工事が進んでいます。私は父と見に行ったのですが、堤防には大きなブロックが積まれ、上流のえん堤も新しくなっていました。川に積もった砂や土を運び出す工事も行われていました。なぜ土を運び出しているかということ、川の水があふれないようにするためだそうです。県庁の河川課の方に教わり、とても勉強になりました。

土砂災害は「身近な災害」なのだと、私は改めて思いました。台風でのき険な川の様子、鈴鹿川の工事の様子やえん堤を見学して思ったのです。大雨の予報を知ったら、ひなん等、今できる事について家族と話し合い、自分にできる準備は自分でしょうと思いました。

これからも、土砂災害に備えるために自分の周りの様子を見直していきたいと思っています。